

名古屋市保健所 感染症対策・調査センターの活動(業務課)

(令和 6 年度)



(衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設)

名古屋市保健所 感染症対策・調査センター

発刊にあたって

この度、感染症対策・調査センターの活動（令和6年度）をお届けできることをうれしく思います。感染症対策・調査センターは守山区志段味地区に位置し、自然豊かな環境に囲まれています。この原稿を書いている今はツクツクボウシがよく鳴いており、足元に目を移すと市内では準絶滅危惧種に指定されているトゲナナフシがクモの巣に絡まっているという驚くべき光景を目にします。

さて、令和6年は名古屋市における真夏日および猛暑日の日数が観測史上1位の値を更新する非常に暑い年でした。そして令和7年はさらにそれらを更新する勢いのようです。この気候変動でデング熱等の感染症を媒介するヒトスジシマカの生息地域が拡大し、また活動時期が延長されることが予測されます。当センターでも蚊の生息状況調査を継続して実施しておりますが、今回の調査結果と10年前の調査結果を比べてみると確かに活動時期が長くなっています。これにより蚊媒介感染症の感染リスクが高まることが懸念されます。

また、最近はダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の愛知県内年間患者数、さらには全国においても年間患者数が過去最高を更新したと報道されています。名古屋市内が推定感染地となった事例はまだありませんが、市内の公園でニホンカモシカが目撃されるなど、大型の野生動物が身近に見られるようになり、マダニについても注意が必要です。当センターでは令和6年度、市内全域におけるマダニの生息状況調査を行いました。本誌にて結果をまとめておりますので、ぜひお住まいもしくはお勤めの区の状況をご確認いただければと思います。

様々な感染症が話題になる中、当センターは感染症に関する業務を通じまして、市民の方々の健康を守る使命を果たすため、これからも職員一丸となって取り組んでまいります。今後とも関係各位の皆様のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

令和7年10月

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター所長
上田早穂

目 次

I 概要

1	機構及び分担業務	1
2	職員	1
3	沿革	2
4	施設と設備	3

II 事業結果(令和6年度)

1	はじめに	5
2	感染症対策事業	5
	(1) 感染症患者の移送、消毒	5
	(2) 検体等の搬送	6
	(3) 浸水時の消毒等	7
	(4) 設備機器の維持管理	8
3	感染症媒介昆虫等対策事業	9
	(1) 感染症を媒介する衛生害虫等の調査	9
	(2) 緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置	10
	(3) 集約区保健センターへの技術的協力	10
4	感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業*	11
	(1) 普及啓発活動	11
	(2) 普及啓発物品の配布	13
	(3) 普及啓発資材の整備	13
	(4) 広報活動	13

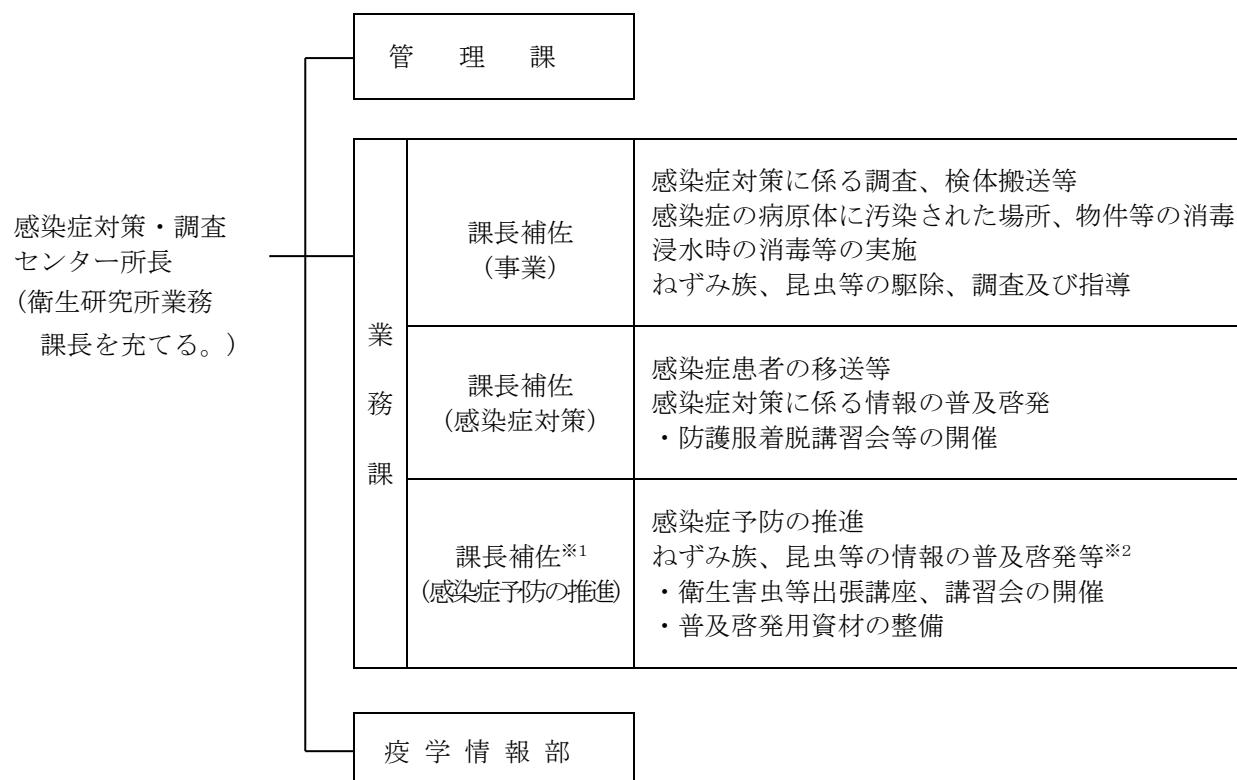
III 資料編(令和6年度)

1	学会派遣、研究発表及び講師派遣等	14
(1)	学会派遣、研究発表、表彰	14
(2)	講師派遣	14
(3)	感染症合同訓練	14
(4)	報道協力	14
2	広報指導用資材一覧表	15
3	フィールドレポート	18
(1)	蚊生息状況調査結果	18
(2)	マダニ生息状況調査結果	19
(3)	スズメバチ生息状況調査結果	19
4	調査研究結果	22
(1)	蚊生息状況調査結果	22
(2)	名古屋市全域におけるマダニ生息状況調査	25
(3)	スズメバチ生息状況調査結果	29

※ 衛生研究所業務課としての業務を含む。

I 概要

1 機構及び分担業務



※1 感染症対策課課長補佐が兼務

※2 衛生研究所業務課としての業務

2 職 員(業 務 課)

(令和7年4月1日現在)

補職名 課	技 術 職 員								計	
	課 長	課 長 補 佐	主 任	技 師	保 健 師	看 護 師	運 転 士	業 務 技 師		
業 務 課	1	3	4	2	1	1	1	6	1	20

3 沿革

昭和 15 年 5 月	防疫所業務開始(移送、消毒、医学的検査等)
昭和 20 年 3 月	庁舎消失
昭和 22 年 9 月	衛生班、全市で 40 ヶ班配置
昭和 23 年 4 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 33 年 11 月	医学的検査等の業務を保健所へ移管
昭和 34 年 9 月	伊勢湾台風により庁舎倒壊
昭和 36 年 2 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 39 年 7 月	衛生班活動ブロック体制開始
昭和 44 年 3 月	庁舎増築工事竣工
昭和 44 年 8 月	防疫センター発足、機構改革
昭和 44 年 9 月	移送、消毒、そ昆蟲除業務開始
昭和 46 年 9 月	重症結核患者対策開始
昭和 47 年 7 月	タップミノー養殖開始
昭和 48 年 1 月	公共下水道内ネズミ駆除活動開始
昭和 51 年 3 月	感染症サーベイランス事業に参加
昭和 53 年 10 月	河川水等サーベイランス事業に着手
昭和 61 年 4 月	昆虫とのふれあい事業開始
昭和 61 年 8 月	ファーブル号導入
平成 2 年 7 月	高周波誘電加熱装置導入
平成 4 年 4 月	苦情相談窓口設置
平成 7 年 10 月	昆虫及び地域環境理解のための啓発事業の実施 生活衛生センターの発足
平成 11 年 4 月	庁舎改築及び機構改革(タップミノー養殖廃止) 普及啓発活動の充実(展示室「ムーシアム」の開設) 計画駆除の廃止に伴う機構改革 検疫通報に基づく健康調査の実施 居住環境に起因するアレルギーに係る事業開始 移送車 1 台更新
平成 11 年 7 月	高周波誘電加熱装置及び河川水等サーベイランス事業廃止
平成 15 年 3 月	移送車 1 台増車により感染症患者移送業務充実
平成 16 年 3 月	スズメバチ駆除業務一部民間移行
平成 18 年 6 月	ファーブル号更新
平成 18 年 8 月	スズメバチ駆除業務の完全民間移行(緊急時を除く)
平成 20 年 4 月	依頼消毒・依頼昆虫駆除業務廃止
平成 21 年 3 月	展示室「ムーシアム」閉館
平成 24 年 3 月	昆虫とのふれあい事業及び走る昆虫教室「ファーブル号」の廃止
平成 25 年 3 月	衛生害虫出張講座「おじやま虫キャラバン」の開始
平成 25 年 4 月	機構改革に伴いアレルギー対策及び苦情相談業務の廃止
平成 26 年 4 月	移送車 1 台更新
令和 元年 8 月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による患者移送業務等の開始
令和 2 年 2 月	守山区大字下志段味字穴ヶ洞地区へ移転
令和 2 年 4 月	衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設
令和 2 年 6 月	新型コロナウイルス感染症患者移送業務の一部委託化に伴い委託業者の患者移送車両の消毒業務開始
令和 4 年 11 月	下志段味地区の町名町界整理実施に伴い、所在地の表示が守山区桜坂四丁目 207 番地へ変更
令和 5 年 5 月	委託業者の患者移送車両の消毒業務終了 衛生害虫出張講座「おじやま虫キャラバン」の名称を「衛生害虫と感染症の出張講座」に改め開始

4 施設と設備

〈所在地〉

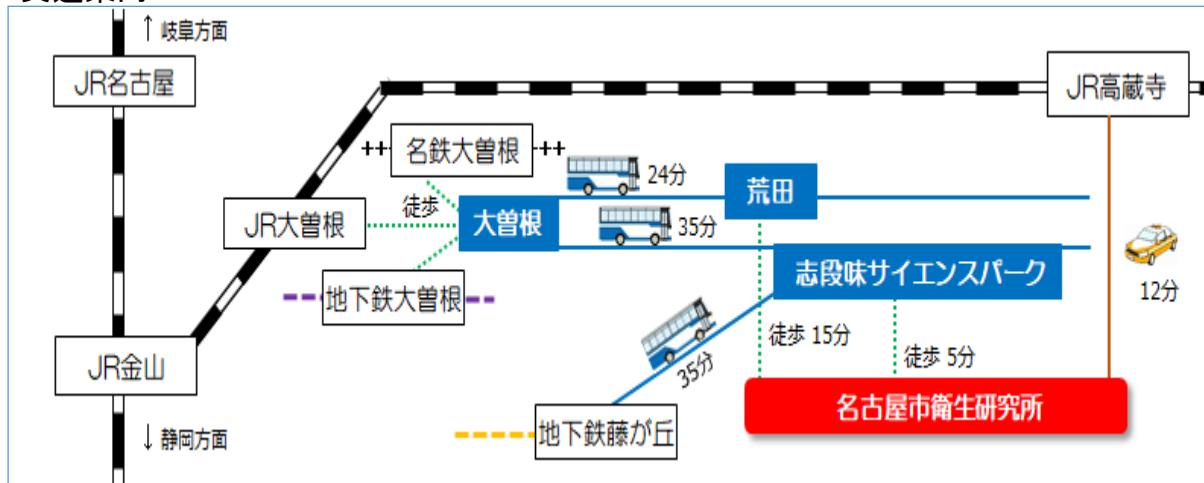
〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地



衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設

〈交通案内〉



- ◆ 守山スマート IC より 車で 約 5 分
◆ JR 高藏寺駅より 車で 約 12 分
- ◆ JR・名鉄・地下鉄大曽根駅より
バス【ゆとりーとライン】
 - 志段味サイエンスパーク経由 志段味交通広場行き乗車
志段味サイエンスパーク 下車 徒歩 約 5 分
 - 小幡緑地経由 志段味交通広場行きまたは高藏寺行き乗車
荒田 下車 徒歩 約 15 分
- ◆ 地下鉄藤が丘駅より
バス【藤丘 12 系統】
 - 四軒家経由 東谷山フルーツパーク行き乗車
志段味サイエンスパーク 下車 徒歩 約 5 分

〈主な施設など〉

試験検査室・飼育室

試験検査室では調査で捕獲した検体の同定を行い、飼育室では普及啓発事業で使用する昆虫等の飼育を行っています。



試験検査室



飼育室

車両

患者移送車…………2台



患者移送車

薬剤散布車…………3台



薬剤散布車

その他

簡易式アイソレーター、車椅子型アイソレーター、マスクフィットテスター



簡易式アイソレーター



車椅子型
アイソレーター



マスクフィットテスター

II 事業結果(令和 6 年度)

1 はじめに

感染症対策・調査センターの業務は、「感染症対策事業」、「感染症媒介昆虫等対策事業」及び「感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業」を3本柱として各種の事業を展開し、市民の健康と暮らしを守り、健康的で快適な生活環境づくりを図っている。

以下では令和6年度に行った事業結果を報告する。

2 感染症対策事業

(1) 感染症患者の移送、消毒

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)に基づく、令和6年度の感染症患者の移送は61件であり、令和5年度より1件増加した。患者の内訳はすべて結核患者であった。また、「感染症法」に基づく消毒の実施はなかった(表1、表2)。



感染症患者移送(結核)

表1 感染症患者移送及び消毒等

令和6年度

一類	感染症患者移送(人)							新型コロナウイルス感染症	感染症患者移送件数の推移						
	急性灰白髄炎	結核	ジフテリア	呼吸器症候群	重呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	H7N9		移送件数(件)	コロナ	結核	年度	件数	件数	件数
-	-	61	-	-	-	-	-	-	0	100	100	H29	100	100	100
感染症関係消毒 (件)												-			

表2 結核患者移送件数(依頼保健センター別)

令和6年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
9 (6)	4 (-)	8 (7)	3 (6)	6 (4)	6 (8)	1 (1)	1 (4)	2 (1)	8 (4)	3 (3)	2 (7)	3 (2)	1 (2)	1 (2)	3 (3)	61 (60)

()は令和5年度の件数

(2) 検体等の搬送

ア 結核菌分子疫学検査菌株の搬送

結核の感染経路追跡のため、分子疫学検査菌株を医療機関から衛生研究所へ定期的に搬送しており、令和 6 年度は 105 菌株を搬送した。

イ HIV 抗体検査検体の搬送

保健センター所長からの依頼に基づき、HIV 抗体検査検体を保健センターから衛生研究所へ 2,285 検体搬送した(表 3)。

表 3 HIV 抗体検査検体搬送数(依頼保健センター別)

令和 6 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
167 (217)	190 (205)	182 (218)	189 (249)	2 (1)	2 (11)	198 (238)	140 (201)	160 (242)	182 (214)	123 (159)	129 (193)	147 (144)	112 (147)	205 (212)	157 (161)	2,285 (2,812)

()は令和 5 年度の件数

ウ 感染症発生動向調査検体の搬送

(ア) 病原体定点等検体の搬送

感染症の流行を未然に予知し、早期かつ適切な治療と効果的な予防対策を講じることを目的とする「名古屋市感染症予防対策事業実施要綱」に基づき、市内病原体定点(8 定点)から毎週 1 回、検体回収を行った。また、平成 28 年度以降は、インフルエンザを対象とする病原体定点(指定提出機関)からの検体回収も併せて行っている。

令和 6 年度の検体回収数は 229 件(指定提出機関からの検体回収数は 14 件)で、定点別では愛知医療センター名古屋第二病院が最も多かった。また、検体別では咽頭ぬぐい液が最も多く、次いで便、尿の順であった(表 4)。

表 4 病原体定点等検体搬送数

令和 6 年度

		セントラル東部医療	セントラル西部医療	名古屋市立大学病院	中京病院	掖済会名古屋病院	愛知医療センター名古屋第二病院	くつなごどもクリニック	まじま眼科	合計
検体数	咽頭ぬぐい液	46 (3)	3 (-)	4 (-)	16 (6)	4 (-)	50 (3)	6 (2)	-	129 (14)
	便	5	4	3	2	-	15	-	-	29
	尿	3	2	-	1	1	17	-	-	24
	髄液	2	1	1	-	1	17	-	-	22
	血液	3	3	-	1	1	2	-	-	10
	結膜ぬぐい液	-	-	-	-	-	-	-	9	9
	水疱	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	その他	-	-	-	-	-	2	3	-	5
	合計	59	13	8	20	7	104	9	9	229

()はインフルエンザ様疾患検体数の再掲

(イ) その他検体等の搬送

「名古屋市検体等搬送実施規程」に基づき、医療機関等から提供を受けた検体及び菌株のうち保健センター所長から依頼のあった426検体(菌株含む。)を保健センター等から衛生研究所へ搬送した(表5、表6)。

表5 その他検体等搬送数(依頼保健センター別) 令和6年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
61 (30)	16 (14)	12 (19)	51 (32)	40 (86)	8 (27)	31 (49)	7 (11)	- (10)	63 (47)	27 (12)	41 (36)	- (22)	25 (34)	20 (9)	24 (21)	426 (459)

()は令和5年度の件数

表6 その他検体等搬送数(感染症名※及び検体等種別) 令和6年度

検体等数		腸管出血性大腸菌感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	感染性胃腸炎	急性脳炎	侵襲性肺炎球菌感染症	インフルエンザ様疾患	劇症型溶血性連鎖球菌感染症	蚊媒介感染症	その他	合計
検体等数	菌 株	37	57	-	-	37	-	19	-	8	158
	便	66	-	37	3	-	-	-	-	7	113
	血 液	-	-	-	6	-	-	1	8	19	34
	尿	-	-	-	4	-	-	1	5	10	20
	咽頭ぬぐい液	-	-	-	7	-	-	-	1	10	18
	髄 液	-	-	-	10	-	-	-	-	1	11
	その他の検体	-	1	-	7	-	33	1	5	25	72
	合 計	103	58	37	37	37	33	22	19	80	426

※ 感染症名ごとの検体等数には疑似症を含む。

(3) 浸水時の消毒等

「浸水対策実施要綱」に基づき、被災地域の公共的な場所について消毒及びねずみ族、昆虫等の駆除を行っているが、令和6年度は公共的な場所の消毒等の実施はなかった(表7)。

(4) 設備機器の維持管理

動力噴霧器の設備点検を毎月 1 回実施し、感染症や浸水被害発生時の迅速な出動に備えた。



動力噴霧器の点検作業

表 7 浸水被害状況及び環境防疫活動状況 令和 6 年度

	浸水被害状況(戸数)			消毒実施面積 (m ²)	オルソ系乳剤使用量 (L)	クレゾール石けん液使用量 (L)	延活動班件数	延活動人数
	床上	床下	計					
千種	-	-	-	-	-	-	-	-
東	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-
西	-	-	-	-	-	-	-	-
中村	-	-	-	-	-	-	-	-
中	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和	-	-	-	-	-	-	-	-
瑞穂	-	-	-	-	-	-	-	-
熱田	-	-	-	-	-	-	-	-
中川	-	-	-	-	-	-	-	-
港	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	-	-	-	-
守山	-	-	-	-	-	-	-	-
緑	-	-	-	-	-	-	-	-
名東	-	-	-	-	-	-	-	-
天白	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-	-	-

3 感染症媒介昆虫等対策事業

(1) 感染症を媒介する衛生害虫等の調査

ア 蚊生息状況調査

以下のデングウイルス等保有状況調査を始めとして 162 件の調査を実施した(表 8)。

(ア) デングウイルス等保有状況調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊のウイルス保有状況を把握するため、市内の公園等 6 地点において、5 月から 10 月にかけて月 2 回 CO_2 トランプを 24 時間設置し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。同じく、公園等 2 地点において 5 月から 10 月にかけて月 1 回 8 分間人囮法を実施し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。

(イ) 薬剤感受性調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊幼虫の薬剤感受性を把握するため、市内 1 地点において、7 月から 9 月にかけて週 1 回オビトラップにより採集した卵を衛生研究所に搬入した。

(ウ) 平常時における生息状況調査

市内の公園等 2 地点において、5 月から 11 月にかけて週 1 回 8 分間人囮法による生息状況調査を実施した。また、衛生研究所敷地内にて 4 月から 11 月にかけて週 1 回オビトラップによる産卵調査を行った(III資料編 18 ページ「3 フィールドレポート(1)蚊生息状況調査結果」及び 22 ページ「4 調査研究結果(1)蚊生息状況調査」)。



CO_2 トランプ

クーラーバッグにドライアイスを入れて蚊成虫を誘引し吸引ファンで捕集する。



オビトラップ

水を入れた黒色の小容器に産卵場所となる厚紙を設置し卵を採集する。



8 分間人囮法

調査場所に 1 人が 8 分間立ち、吸血のため飛来する蚊成虫を捕虫網で捕獲する。

イ マダニ生息状況調査

以下の生息状況調査について 95 件の調査を実施した(表 8)。

(ア) 東部丘陵地における生息状況調査

東部丘陵地の公園等 6 地点において、4 月から 3 月にかけて月 1 回 30 分間旗振り法による生息状況調査を実施した(III資料編 19 ページ「3 フィールドレポート(2)マダニ生息状況調査結果」及び 25 ページ「4 調査研究結果(2)名古屋市全域におけるマダニ生息状況調査」)。

(イ) 名古屋市内全域における生息状況調査

東部丘陵地以外の市内の公園等 11 地点において、1 地点につき年 3 回 30 分間旗振り法による生息状況調査を実施した(III資料編 19 ページ「3 フィールドレポート(2)マダニ生息状況調査結果」及び 25 ページ「4 調査研究結果(2)名古屋市全域におけるマダニ生息状況調査」)。



旗振り法

ウ スズメバチ生息状況調査

以下の生息状況調査について 80 件の調査を実施した(表 8)。

(ア) 生息状況調査

a 季節変動調査定点

市内の公園等 3 地点において、4 月から 12 月にかけて誘引トラップによる生息状況調査を 67 件実施した。また、調査地点において、営巣調査を 3 件実施した(III資料編 19 ページ「3 フィールドレポート(3)スズメバチ生息状況調査結果」及び 29 ページ「4 調査研究結果(3)スズメバチ生息状況調査」)。



誘引トラップ

b 分布調査定点

市内の公園等 12 地点において、8 月から 9 月にかけて誘引トラップによる生息状況調査を 10 件実施した(III資料編 19 ページ「3 フィールドレポート(3)スズメバチ生息状況調査結果」及び 29 ページ「4 調査研究結果(3)スズメバチ生息状況調査」)。

(2) 緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置

保健センターからの依頼によるネズミ昆虫等業務実施要綱第 8 条に規定される緊急駆除及び名古屋市空家等対策の推進に関する条例第 10 条に規定される応急措置の実施はなかった(表 8)。

(3) 集約区保健センターへの技術的協力

保健センターからの依頼による技術的協力として、蚊媒介感染症の重点サーベイランス地点における媒介蚊の発生源調査を 4 件行った(表 8)。

表 8 調査活動、緊急駆除及び応急措置、技術的協力件数 令和 6 年度

	調査活動	緊急駆除	応急措置	技術的協力
ネズミ	-	-	-	-
ゴキブリ	-	-	-	-
カ	162	-	-	4
スズメバチ	80	-	-	-
マダニ	95	-	-	-
計	337	-	-	4

4 感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業

(1) 普及啓発活動

ア 感染症対策に係る研修等及び訓練

保健センターからの依頼により、職員や福祉施設関係者を対象に防護服着脱訓練及びマスクフィットテストを7回行い、88名の参加があった(表9)。



防護服着脱訓練及びマスクフィットテスト

イ 衛生害虫と感染症の出張講座及び講習会

感染症の予防及び感染症を媒介する衛生害虫等に関する対策等の普及啓発活動として出張講座を80回行い、8,553名の参加があった(表9)。

各団体等からの依頼により講習会を5回実施した。消防学校の依頼により学生及び職員に対して感染防止と消毒に関する講義を行った。また、公益社団法人愛知県ペストコントロール協会等の依頼により感染症媒介昆虫等に関する講習会を行った。

その他、樹脂標本等の普及啓発資材貸出が3回あった(表9)。



衛生害虫と感染症の出張講座

ウ 公衆衛生セミナー

名古屋市衛生研究所YouTubeチャンネルで事前に収録した外部講師等による講演を8回配信し、1年間公開した(表10)。

エ マダニの動画配信

感染症対策・調査センターYouTubeチャンネルでダニ媒介感染症を引き起こすことがあるマダニの動画を3回配信した。

表9 普及啓発活動月別実施回数と参加人数 令和6年度

月	衛生害虫と感染症の出張講座		講習会等		公衆衛生セミナー		その他※2				計	
	回数	参加 人数	回数	参加 人数	回数	参加 人数※1	回数	参加 人数	PPE 訓練等 再掲	回数	参加 人数	
									回数			
4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	4	341	1	50	-	-	1	15	1	15	6	406
6月	6	567	-	-	1	51	2	13	1	10	9	631
7月	7	1,151	-	-	-	-	1	3	-	-	8	1,154
8月	6	564	1	21	1	33	3	21	-	-	11	639
9月	4	534	-	-	1	50	-	-	-	-	5	584
10月	6	509	-	-	1	44	2	11	1	10	9	564
11月	8	946	1	50	1	41	2	20	1	20	12	1,057
12月	12	1,293	-	-	1	133	2	25	2	25	15	1,451
1月	11	1,145	1	135	1	68	1	-	-	-	14	1,348
2月	10	924	1	5	1	15	-	-	-	-	12	944
3月	6	579	-	-	-	-	1	8	1	8	7	587
計	80 (80)	8,553 (8,564)	5 (3)	261 (244)	8 (8)	435 (543)	15 (18)	116 (257)	7 (15)	88 (249)	108 (115)	9,365 (9,608)

()は令和5年度の数

※1 公開月末までの視聴回数。

※2 その他の内訳は普及啓発資材貸出、PPE 訓練等(防護服着脱訓練及びマスクフィットテスト)。

資材貸出は回数のみ計上している。

表10 公衆衛生セミナー実施内容

令和6年度

配信日	内容	担当・外部講師
6/28	マダニ	業務課
8/23	シックハウス問題は昔の話だと思っていませんか？	衛生研究所 生活環境部
9/27	スズメバチの世界～チャイロスマズメバチ、クロスズメバチ、ツマアカズメバチも知っていますか？～	日本衛生動物学会 山内博美
10/25	結核は過去の病気？	衛生研究所 疫学情報部
11/22	マダニとマダニ媒介感染症	愛知医科大学 角坂照貴
12/27	デング熱	衛生研究所 微生物部
1/24	口腔ケアと感染症予防	業務課
2/28	魚を食べてアレルギー？ヒスタミン食中毒をご存じですか？	衛生研究所 食品部

才 感染症対策・調査センターだより

感染症対策・調査センターの業務や感染症及び衛生害虫等の情報を定期的に発信する「感染症対策・調査センターだより」を年4回発行し、保健センター等を介して配布した。



感染症対策・調査センターだより

(2) 普及啓発物品の配布

出張講座参加者に対し市民への感染予防啓発活動の媒体として、マスクケース等の感染症予防普及啓発物品及び感染症対策・調査センターの業務紹介チラシを114セット配布した。



マスクケース(展開図)

(3) 普及啓発資材の整備

普及啓発用資材として標本及び樹脂標本を整備した。また、保健センターに対して資材の貸出を行う等広く活用した。さらに、スズメバチをはじめ、市内に生息する昆虫等を採集・飼育し、生きた昆虫等の展示を組み合わせて啓発に利用する等工夫を図った。



樹脂標本

(4) 広報活動

名古屋市公式ウェブサイト内の衛生研究所業務課(感染症対策・調査センター)のページに、業務の紹介及び感染症媒介昆虫等の調査結果等を掲載した。その他、電子申請サービスを活用した衛生害虫と感染症の出張講座の申込受付を行った。さらに、衛生研究所業務課のXを開設した。

III 資 料 編

(令和 6 年度)

1 学会派遣、研究発表及び講師派遣等

(1) 学会派遣、研究発表、表彰

派 遣 先	講 演 内 容	派 遣 者
R6/4/26 第 70 回名古屋市公衆衛生研究発表会 (発表) (名古屋市総合社会福祉会館)	守山区丘陵地域における蚊相調査結果	田村 康二
	名古屋市におけるマダニ生息状況調査	曾我 俊之
	スズメバチ類に対する木酢液の忌避効果について	曾我 俊之
R6/10/31 第 68 回生活と環境全国大会 事例研究発表会 (発表) (神奈川県民ホール)	蚊・マダニ・スズメバチ生息状況調査における効率的な調査方法の追及について	天野 賢
R6/11/28 愛知県 PCO 協会共催防除技術研修会 (発表) (名古屋港湾会館)	感染症対策・調査センターの業務及び蚊媒介感染症について	三田 あや
R7/1/31 第 42 回愛知県衛生研究所研究発表会 (参加) (愛知県衛生研究所)		三田 あや 曾我 俊之
R7/2/6~7 第 57 回ペストコントロールフォーラム 高知大会 (参加) (高知県立県民文化ホール)		天野 賢

(2) 講師派遣

派 遣 先	講 演 内 容	派 遣 者
R6/5/15 「ハチ・マダニ講習会」 (市内事業所)	ハチ・マダニ講習会 屋外作業時における注意点	田村 康二
R6/8/29 「健康と危機管理勉強会」 (千種保健センター)	蚊・マダニの生息状況調査について	天野 賢
R7/1/7 救急課程第 34 期救急隊員養成講義 「感染防止と消毒」 (名古屋市消防学校)	感染症の基礎知識・感染症法・予防方法・消毒法・手指衛生の重要性	磯部 多恵

(3) 感染症合同訓練

訓 練 内 容	協 力 機 関
R7/1/10 新型インフルエンザ実地訓練	感染症対策課、医療機関、保健センター

(4) 報道協力

取材日	報 道 機 関	報 道 内 容
R6/5/21	中京テレビ	蚊・スズメバチについて
R6/6/20	CBC テレビ	蚊について
R6/6/28	テレビ愛知	蚊について

2 広報指導用資料一覧表

令和6年度

パ　ネ　ル	
〈ネズミ〉	樹液に集まる虫 テントウムシの見つけ方 食べる食べられる虫たちのきびしい生活 名古屋のセミ セミのぬけがら調査結果@千種公園 クマゼミって増えてるの? セミのオスとメス どこがちがう? セミのぬけがら見分け方
〈ゴキブリ〉	
たくましい生活力	
〈ダニ〉	書　籍
ダニはどこにいるだに?	生活と環境(2015年~)
ダニはここにいるだに!	公衆衛生(2015年~)
〈ハチ〉	昆虫と自然 (2016年7月~)
ハチに刺されないために	原色ペストコントロール図説 第I集
コガタスズメバチの生活史	原色ペストコントロール図説 第II集
スズメバチの営巣場所	原色ペストコントロール図説 第III集
もしハチに刺されたら	原色ペストコントロール図説 第IV集
クマバチの巣をさがそう	原色ペストコントロール図説 第V集
スズメバチを巡る食物連鎖	原色日本昆虫生態図鑑 I カミキリ編
ヤブガラシに集まるハチ	原色日本昆虫生態図鑑 II トンボ編
ハチの巣はどこにあるっ巣?	原色樹木病害虫図鑑
ハチの巣はここにあるっ巣!	原色日本クモ類図鑑
〈ケムシ〉	原色日本甲虫図鑑 I ~IV
りんぶんってなあに??	原色日本蛾類幼虫図鑑 上・下
校庭の危険な虫～有毒ケムシ～	原色日本昆虫図鑑 上・下
〈カ〉	原色日本蝶類生態図鑑 I ~IV
カはどれも同じなの(ヤブカ・イエカ比較)	日本原色カメムシ図鑑
カはどうやって育つの	日本原色アブラムシ図鑑
カはどこで生まれるの	日本産ゴキブリ類
〈その他の衛生害虫〉	原色昆虫大図鑑 I ~III
セアカゴケグモ	学研生物図鑑 昆虫 I ~III
アルゼンチンアリ	日本蜂類生態図鑑
トコジラミ(南京虫)	日本ダニ類図鑑
〈昆虫一般〉	ダニ類
アゲハチョウのなかま	原色図鑑 野外の毒虫と不快な虫
モンシロチョウのふしぎ	原色図鑑 衛生害虫と衣食住の害虫
ツマグロヒョウモンって知ってる?	日本産水生昆虫検索図説
海を渡るチョウ アサギマダラ	日本産トンボ幼虫・成虫検索図説
名古屋のセミ調べ	びっくり害虫図鑑
朽ち木の中から冬の虫さがし	家屋害虫事典
成虫で冬を越すバッタ	日本のクモ
バッタをさがそう	昆虫実験法 材料・実習編
赤とんぼの名前調べ	昆虫実験法 研究編
鳴く虫の声を聞く	ダニと新興再興感染症
虫こぶ入門	ズーノーシスハンドブック

アウトブレイクの危機管理	夏の思い出2
消毒薬テキスト新版	夏の虫カレンダー
日本産蚊全種検索図鑑	セミの一生
医ダニ学図鑑	セミの抜け殻の絵とき検索
以上始め 約500冊	セミの世界一と日本一
C D - R O M	トンボの抜け殻調べ
原色ペストコントロール図説 第I集	大きなトンボと小さなトンボ
原色ペストコントロール図説 第II集	アカトンボの仲間
原色ペストコントロール図説 第III集	17年ゼミ
害虫スライド集	ちいさい秋みつけた1
標 本 等	ちいさい秋みつけた2
〈標本箱〉	秋の昆虫
もりにいるおじやまむし	秋のチョウ
だいどころにいるおじやまむし	鳴く虫の声を聞きに行こう!
いえのちかくのおじやまむし	バッタのオリンピック
おへやにいるおじやまむし	むしの冬越
セアカゴケグモにきをつけて	どうしているのかな?1
アシナガバチとスズメバチ	どうしているのかな?2
ハチの巣のアパートの住民たち	かくれんぼ1
巣の中を見てみよう2	かくれんぼ2
名古屋のスズメバチ2	屋外の害虫
テントウムシの仲間	家庭で見つかる虫たち
形と役目はさまざま 昆虫の体の仕組み	台所のおじやま虫 ゴキブリ
形と役目はさまざま 昆虫の口	屋内の害虫
形と役目はさまざま 昆虫の翅	スズメバチの仲間
形と役目はさまざま 昆虫の脚	アシナガバチとその巣
水生昆虫の一生	千種区のチョウ1
池にすむ虫たち	千種区のチョウ2
水辺の虫探し	千種区のトンボ1
小さな池にも…	千種区のトンボ2
大きな池をのぞいたら	東区のチョウ
ヤママユのなかま	東区のトンボ
タンポポにやってくる虫たち	北区のチョウ
ヤブガラシに集まる昆虫	北区のトンボ
チョウのパレード	西区のチョウ
チョウの来る校庭	西区のトンボ
ツマグロヒョウモン	中村区のチョウ
チョウと食草1	中村区のトンボ
チョウと食草2	中区のチョウ
チョウと食草3	中区のトンボ
森のレストラン	昭和区のチョウ
森のレストラン	昭和区のトンボ
樹液のレストランの昼と夜	瑞穂区のチョウ
樹液のレストラン(昼)	瑞穂区のトンボ
樹液のレストラン(夜)	熱田区のチョウ
夏の思い出1	熱田区のトンボ

中川区のチョウ	ドクチョウの仲間
中川区のトンボ	トリバネチョウの仲間2
港区のチョウ	ワモンチョウの仲間、ジャノメチョウの仲間
港区のトンボ	地球温暖化と昆虫
南区のチョウ	名古屋市版レッドデータブックの昆虫1
南区のトンボ	名古屋市版レッドデータブックの昆虫2
守山区のチョウ1	外国のチョウ2
守山区のチョウ2	名古屋にいるマダニ
守山区のトンボ1	守山区(衛生研究所)にいる蚊
守山区のトンボ2	〈実物〉
緑区のチョウ1	キイロスズメバチの巣
緑区のチョウ2	コガタスズメバチの巣
緑区のトンボ1	モンスズメバチの巣
緑区のトンボ2	オオスズメバチの巣
名東区のチョウ1	〈樹脂標本〉
名東区のチョウ2	トンボ目
名東区のトンボ1	チョウ目
名東区のトンボ2	ハチ目
天白区のチョウ1	バッタ目
天白区のチョウ2	カマキリ目
天白区のトンボ1	ゴキブリ目
天白区のトンボ2	コウチュウ目
アゲハチョウ科	カメムシ目
シロチョウ、シジミチョウ科	以上始め 樹脂標本 約250個
マダラ、テング、タテハチョウ科	その他
ジャノメ、セセリチョウ科	セアカゴケグモのジオラマ
名古屋のチョウ1	
名古屋のチョウ2	
名古屋から姿を消したチョウ	
名古屋のトンボ	
イト、アオイト、モノサントンボ科1	
エゾトンボ、トンボ科1	
カワ、サナエトンボ科	
ヤンマ、オニヤンマ科	
トンボ科2	
池や小川で見られるトンボ	
水辺の親子	
歌っているのはだれ?	
あつ、飛んだ	
春になれば	
虫の冬越し	
街で見かけるセミと抜け殻	
カブトムシの1年	
アゲハチョウの仲間1	
キシタアゲハの仲間1	
タテハチョウの仲間2	

3 フィールドレポート

(1) 蚊生息状況調査結果

表1 市内2地点^{※1}(週1回各地点4か所)における8分間人囮法調査結果(捕集数計)

調査日 種別	5月					6月					7月				8月		
	2日	9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	27日	4日	9日	18日	25日	1日	8日	15日	
ヒトスジ♂	-	-	1	1	3	4	8	4	5	7	35	6	5	-	-	-	
シマカ♀	-	-	1	6	5	4	3	12	6	15	31	16	20	16	8	4	
アカイエ♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カ群♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 ^{※2}	2 ^{※2}	-	-	-	

調査日 種別	8月												計			
	22日	28日 30日	5日	12日	19日	26日	3日	10日	17日	24日	31日	7日	14日	21日	28日	
ヒトスジ♂	2	17	5	4	-	1	-	1	16	46	1	-	-	-	-	172
シマカ♀	12	6	7	16	29	14	6	12	23	50	5	1	-	-	-	328
アカイエ♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カ群♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2
その他♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 ^{※2}

※1 名城公園(北区)、小幡緑地(守山区)

※2 キンパラナガハシカ

表2 市内1地点^{※3}におけるオビトラップ(5個)による産卵調査結果

回収日	4月					5月					6月						
	10日	17日	24日	1日	8日	15日	22日	29日	5日	13日	20日	26日					
卵	-	-	-	16	47	22	41	37	70	47	92	27					
ふ化殻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
幼虫	-	-	-	-	-	-	4	12	1	8	-	-					
回収日	7月							8月							9月		
	3日	10日	17日	24日	30日	7日	14日	21日	28日	4日	11日	17日	25日				
卵	84	52	44	192	236	68	107	77	157	53	220	136	127				
ふ化殻	10	1	46	7	1	-	2	5	11	4	2	-	6				
幼虫	18	27	91	13	2	6	-	19	41	36	1	-	15				
回収日	10月								11月				計				
	2日	9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	27日								
卵	40	46	69	16	62	33	-	1	-	2,219							
ふ化殻	1	-	-	-	-	-	-	-	-	96							
幼虫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	294							

※3 衛生研究所(守山区)

(2) マダニ生息状況調査結果

表1 東部丘陵地6地点(月1回実施)における30分間旗振り法による調査結果

調査月 種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
タカサゴキララマダニ	4	6	-	3	1	3	3	-	-	-	-	5	25
ベルルスカクマダニ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
キチマダニ	22	44	7	11	326	5	24	35	32	25	23	43	597
タカサゴチマダニ	-	-	4	1	-	1	1	1	4	1	-	1	14
ヤマアラシチマダニ	78	27	18	19	20	25	1	-	-	-	-	-	188
フタトゲチマダニ	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	4
オオトゲチマダニ	1	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	3	7
アカコッコマダニ	14	38	-	-	-	-	-	63	507	155	121	355	1,253
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 ^{※1}	1
計	120	115	29	35	349	34	30	101	543	182	144	408	2,090

※1 マダニ属

表2 東部丘陵地以外11地点(年3回実施)における30分間旗振り法による調査結果

調査月 種別	前期 (4月～8月上旬)	中期 (8月中旬～11月)	後期 (12月～3月)	計
タカサゴキララマダニ	-	-	-	0
ベルルスカクマダニ	-	-	-	0
キチマダニ	-	1	2	3
タカサゴチマダニ	-	-	-	0
ヤマアラシチマダニ	1	-	-	1
フタトゲチマダニ	-	-	-	0
オオトゲチマダニ	-	-	-	0
アカコッコマダニ	-	-	40	40
その他	-	-	-	0
計	1	1	42	44

(3) スズメバチ生息状況調査結果

表1 季節変動調査結果^{※1}

調査日 種別 ^{※2}	4月			5月				6月				
	17日	24日	2日	9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	26日	
守山区	コガタ	1	6	9	2	-	-	1	1	4	2	5
	モン	-	1	-	2	-	2	1	-	2	-	1
	ヒメ	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	2
	オオ	-	-	1	1	-	-	1	-	6	-	1
	その他	4	7	1	-	-	-	-	3	-	-	2
	計	5	14	11	5	0	2	3	5	15	2	11

調査日 種別	7月						8月					9月		
	4日	10日	17日	25日	1日	8日	15日	22日	29日	5日	12日	19日	26日	
守山区	コガタ	7	1	5	3	5	9	7	21	6	12	-	-	1
	モン	1	2	2	7	1	3	6	1	5	1	5	1	1
	ヒメ	3	-	-	-	4	8	7	12	1	2	-	1	-
	オオ	12	3	13	7	3	8	22	23	42	37	19	34	56
	その他	-	-	-	1	3	3	3	5	2	1	-	-	-
	計	23	6	20	18	16	31	45	62	56	53	24	36	58

調査日 種別	10月								11月			計
	3日	10日	17日	24日	31日	7日	14日	21日	28日			
守山区	コガタ	-	3	1	-	2	-	-	-	-	-	114
	モン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45
	ヒメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44
	オオ	16	14	13	11	3	6	1	-	-	-	353
	その他	-	-	1	-	-	4	-	-	1	-	41
	計	16	17	15	11	5	10	1	0	1	-	597

調査日 種別	4月						5月					6月		
	17日	23日	1日	8日	15日	22日	29日	5日	12日	19日	26日			
緑区	コガタ	1	13	12	1	3	2	4	61	17	10	4		
	モン	-	3	3	3	-	1	3	14	3	-	3		
	ヒメ	-	-	-	-	-	-	1	10	9	3	2		
	オオ	-	7	5	6	5	3	5	13	11	3	4		
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1		
	計	1	23	20	10	8	6	13	98	41	16	14		
調査日 種別	7月						8月					9月		
	3日	10日	17日	24日	31日	7日	16日	21日	28日	4日	11日	18日	25日	
緑区	コガタ	5	-	22	7	13	11	33	14	6	5	7	3	1
	モン	6	6	20	12	50	69	72	60	59	110	59	51	76
	ヒメ	-	-	1	1	7	8	19	12	17	21	13	5	2
	オオ	1	1	15	23	20	26	59	59	104	147	79	64	69
	その他	-	-	-	-	-	1	2	2	-	1	-	-	-
	計	12	7	58	43	90	115	185	147	186	284	158	123	148
調査日 種別	10月						11月					計		
	2日	9日	15日	23日	30日	6日	13日	20日	27日					
緑区	コガタ	1	1	4	9	7	4	4	1	1	287			
	モン	41	11	5	2	-	-	-	1	-	743			
	ヒメ	3	-	-	1	-	-	-	-	-	135			
	オオ	54	68	45	59	58	52	26	14	3	1,108			
	その他	-	-	-	1	1	4	2	-	1	17			
	計	99	80	54	72	66	60	32	16	5	2,290			

調査日 種別	4月				5月				6月				
	17日	23日	1日	8日	15日	22日	29日	5日	12日	19日	26日		
名東区	コガタ	-	7	1	1	-	1	1	7	7	2	3	
	モン	-	5	1	-	2	-	1	-	2	-	1	
	ヒメ	-	-	-	-	-	-	4	6	4	-		
	オオ	-	4	6	8	1	2	3	1	2	4	5	
	その他	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計	-	17	8	9	3	3	5	12	17	10	9	
調査日 種別	7月				8月				9月				
	3日	10日	17日	24日	31日	7日	16日	21日	28日	4日	11日	18日	25日
名東区	コガタ	2	-	4	3	10	15	45	5	5	30	5	2
	モン	14	8	9	17	25	18	58	24	61	30	35	22
	ヒメ	1	-	-	-	-	1	1	-	-	3	1	-
	オオ	3	1	2	1	13	5	33	12	33	57	48	39
	その他	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	計	20	9	15	21	48	39	137	42	99	120	89	63
調査日 種別	10月				11月				12月				
	2日	9日	15日	23日	30日	6日	13日	20日	27日	4日	計		
名東区	コガタ	4	2	1	8	11	5	1	1	-	-	195	
	モン	19	5	5	2	1	2	-	-	-	-	396	
	ヒメ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
	オオ	25	31	37	27	36	22	18	15	2	1	530	
	その他	-	-	-	-	-	3	-	-	4	4	13	
	計	50	38	43	37	48	32	19	16	6	5	1,159	

※1 誘引液を入れたファネルトラップを2個設置し毎週生息状況を調査

※2 コガタはコガタスズメバチ、モンはモンスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、オオはオオスズメバチ。

その他の内訳は、チャイロスズメバチ、クロスズメバチ及びキイロスズメバチ

表2 分布調査結果※3

種別※4	コガタ	モン	ヒメ	チャイロ	オオ	計
千種区	9	257	-	-	53	319
北区	16	-	6	-	2	24
西区	50	84	5	-	15	154
中村区	16	-	1	-	-	17
中区	10	-	-	-	1	11
昭和区	101	195	2	-	3	301
熱田区	11	-	-	-	-	11
中川区	12	-	4	1	2	19
港区	156	-	4	-	-	160
南区	54	-	-	-	1	55
守山区	57	6	2	-	93	158
天白区	43	20	10	-	128	201
計	535	562	34	1	298	1,430

※3 誘引液を入れたファネルトラップを2個設置し2週間生息状況を調査(8~9月)

※4 コガタはコガタスズメバチ、モンはモンスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、チャイロはチャイロスズメバチ、オオはオオスズメバチ

4 調査研究結果

(1) 蚊生息状況調査

ア 目的

蚊媒介感染症は、インバウンドの増加とともにない流行が懸念される輸入感染症の一つである。2014年にデング熱が代々木公園でアウトブレイクしたことは記憶に新しい。このような輸入感染症は、多数の外国人が来訪するイベントなどの機会に持ち込まれる可能性がある。本市では、令和8年9月19日から10月4日まで愛知・名古屋アジア競技大会（以下、「アジア大会」という。）が開催され、ヒトスジシマカの活動時期と重なることもあり蚊媒介感染症の発生リスクがより高まるものと考えられる。競技実施予定会場が立地している場所は、代々木公園と同様に一般市民が利用する市内の公園等が多く、これらの場所に蚊媒介感染症の不顕性感染の入国者が来訪し、蚊密度の高い場所で蚊に刺されて感染が拡大する恐れがある。そこで、本調査ではアジア大会競技実施予定会場等において蚊成虫の生息状況調査を行った。また、卵及び幼虫の発生消長と成虫発生消長を比較するため、蚊産卵調査を衛生研究所で実施した。

イ 調査方法

(ア) 蚊成虫調査 … 人囮法(図1)

調査員が各調査ポイントで8分間立っている間に吸血飛来する蚊成虫を捕虫網で捕集し、同定・計数した。



図1 人囮法



図2 オビトラップ法

(イ) 蚊産卵調査 … オビトラップ法(図2)

調査地点に水道水と白色ボール紙を入れた黒いスチロール瓶（直径約65mm、高さ約100mm）（以下、「オビトラップ」という。）を5個設置し、1週間後に白色ボール紙に捕集された卵を同定・計数するとともにオビトラップ内にふ化している幼虫を計数した。

ウ 調査地点及び調査期間

(ア) 蚊成虫調査

アジア大会競技実施予定会場が立地している公園等（以下、地点A、Bとする。）を調査地点とし、各地点につき4か所の調査ポイントを定めた。

令和6年5月から11月を調査期間とし、週1回午前の時間帯に調査を実施した。

(イ) 蚊産卵調査

令和6年4月から11月を調査期間とし、週1回衛生研究所の敷地内で調査を実施した。

エ 調査結果

(ア) 蚊成虫調査

地点Aでヒトスジシマカのメスを154頭、オスを72頭、地点Bでヒトスジシマカのメスを174頭、オスを100頭捕集した。その他の蚊としては、地点Aにおいてアカイエカ群のメスを1頭、地点Bにおいてアカイエカ群のメスを1頭、キンパラナガハシカのメスを3頭捕集した。

ヒトスジシマカのメスの月ごとの捕集数（4か所合計）は、地点Aでは、7月から増加しピークに向かえ、8月・9月はやや減少し、10月も7月とほぼ同数の捕集数があった。地点Bでは、6月から増加し、8月・9月はやや減少し、10月にピークが見られた（図3）。なお、ヒトスジシマカのメスは、地点Aでは5月の第3週から、地点Bでは5月の第4週から捕集され始め、10月に最も多く捕集された。その後、地点Aでは11月の第1週まで、地点Bでは10月の第5週まで捕集された。

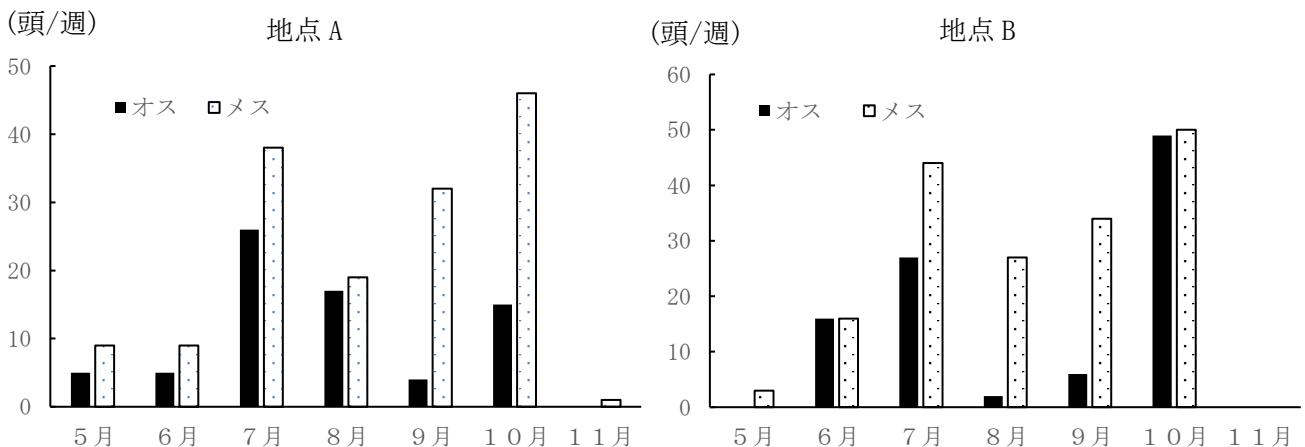


図3 人囮法による蚊成虫調査におけるヒトスジシマカ成虫の週平均捕集数(4か所合計)

(イ) 蚊産卵調査

オビトラップにより捕集された蚊の卵・幼虫について、月ごとの1週分の平均捕集数(トラップ1個あたり)を図4に示した。月ごとの1トラップあたりの週平均捕集数において、卵は5月の第1週から、幼虫は5月の第4週から捕集され始め、10月以降幼虫は捕集されなくなった。卵は11月の第3週まで捕集された。卵は9月に、幼虫は7月に平均捕集数は最大になった。

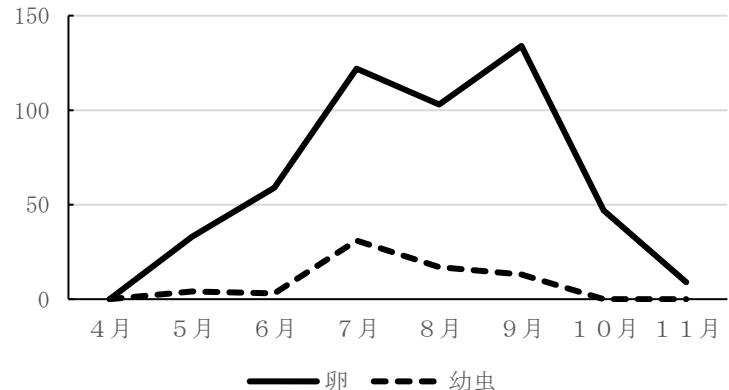


図4 オビトラップ法による蚊産卵調査における卵及び幼虫の週平均捕集数

才 考察

蚊成虫調査を実施した地点Aは都市部、地点Bは東部丘陵地と立地は異なるが共にスポーツ関連施設を併設し、面積もほぼ同じで公園内環境が似通っているためか、捕集したメス成虫の月毎の消長は同様の傾向が見られた。地点Bの方が合計捕集数が多かったのは、地点Aではアジア大会に向けて改修工事が進行中で潜み場所となる植栽等が減少した影響が考えられる。また、ヒトスジシマカ以外の蚊については、地点Aではアカイエカ群1頭のみ、地点Bではアカイエカ群1頭及びキンパラナガハシカ3頭が捕集された。地点Bは東部丘陵地に立地していることもあり、ヒトスジシマカ以外の蚊族にとって生息に適した環境である可能性がある。

調査地点は異なるが、蚊成虫調査におけるヒトスジシマカのメスは7~10月、蚊産卵調査における卵は7~9月に多く捕集したが、ともに8月は7月及び9月より捕集数が少なかった。蚊の活動が活発になるのは25°C~30°Cだが、調査期間中の名古屋市の月毎の平均気温*(表1)は8月が酷暑により30°Cを超えていたため、蚊の活動性が抑えられた可能性がある。また、10月に蚊成虫捕

表1 名古屋市の月毎の平均気温

4月	17.5°C
5月	19.7°C
6月	23.8°C
7月	29.4°C
8月	30.2°C
9月	28.2°C
10月	21.6°C

集数は減少せず増加したが、卵の捕集数は半分以下に減少した。9月の平均気温は蚊にとって至適温度となったが、8月の酷暑の影響のある9月上旬より9月下旬に活動性が活発となり、蚊成虫の寿命が1か月程度あることが10月の成虫捕集数増加に影響した可能性がある。また、10月の平均気温が25°Cを下回っていることから、成虫が生存はできても吸血後の卵の発育等が適温期より抑制されたために、卵の捕集数が激減した可能性がある。

力 まとめ

本調査は、インバウンドの増加に伴い今後デング熱等蚊媒介感染症の国内感染が再び起きるおそれがあるため、海外からの観客が大挙押し寄せると予想されるアジア大会競技実施予定会場等で蚊成虫生息状況調査を行い、管理者に調査結果を還元して蚊防除対策を促したものである。10月の秋季であっても蚊の発生はピーク時と同じレベルまで見られたことから、ヒトスジシマカの吸血活動が低下しないおそれがあり、長期間にわたって蚊媒介感染症の対策を実施していく必要性があると考えられる。

当センターでは、今後も引き続きアジア大会の会場等において蚊の生息状況調査を実施して、アジア大会開催時の蚊媒介感染症対策の一助としていきたい。

*平均気温は気象庁ホームページより各都市の観測データを引用した。

(2) 名古屋市全域におけるマダニ生息状況調査

ア 目的

平成 25 年度から平成 28 年度の調査において、市内では吸血源となる野生動物が比較的多くみられている東部丘陵地(千種区、守山区、緑区、名東区及び天白区)にてマダニを多く捕獲した。この結果をもとに、その後の調査は東部丘陵地に絞って実施してきた。しかし、近年マダニ媒介感染症である日本紅斑熱(JSF)が三河地方でのみ報告されていたものが尾張地方においても報告されるようになり、その数も増加傾向である。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)も最近県内で患者発生が報告されるようになった。そして、市内中心部において、吸血源でマダニを運ぶとされるアライグマなどの野生動物がたびたび目撃されるようになってきている。以上のことから、あらためて市内全域におけるマダニの生息状況を確認し、マダニ媒介感染症のリスク評価などの対策に資するものとする。

イ 調査方法

調査地点は市内全区(16 区)において、「東部丘陵地」5 区(千種区、守山区、緑区、名東区及び天白区)に 6 地点、残り 11 区においては比較的緑被率が高く面積の大きい「都市緑地」若しくは「河川敷等」を各区 1 地点ずつの 11 地点を選定し、計 17 地点を調査した。調査期間は令和 6 年 4 月から令和 7 年 3 月までとした。捕獲は、調査員 3 名がフルネル地の白い旗(45×65cm)を植生や落ち葉等の上を 30 分間引きずる旗振り法により行った。調査頻度は、東部丘陵地 6 地点は月 1 回、その他 11 地点は年 3 回とした。捕獲したマダニは形態学的手法により種類及び発育ステージ(成虫、若虫及び幼虫)を同定した。

ウ 調査結果及び考察

(ア) 地点別のマダニ捕獲数及び種類について

市内 17 地点において、9 種(うち 1 種は同定不能のためその他としたもの。)2,134 頭のマダニを捕獲した(表 1)。過去の調査と同様に、都市緑地及び河川敷等ではほとんどマダニを捕獲せず、吸血源となる野生動物が比較的多くみられている東部丘陵地では、マダニを多く捕獲した。しかし、今回初めて調査した東区、中区及び熱田区という市内中心部にある地点において、少ないながらもマダニを捕獲した。これらの地点では近年野生の小動物の目撃情報がたびたび報告されており、これらによってマダニが運ばれてきたと考えられる。これらの地点では、SFTS を媒介するキチマダニ及び JSF を媒介するヤマアラシチマダニを捕獲したが、定着すればそれぞれの感染リスクが増大するため、今後とも注視が必要である。

東部丘陵地の地点間においても捕獲種及び捕獲数は大きく異なった。これは、それぞれの地点における吸血源となりうる野生動物の生息状況の差によると考えられる。市外の山林と接している林縁部でイノシシなどの大型野生動物の往来が目撃されている守山区 A では、これまでの調査でもイノシシを吸血する種で、人嗜好性が高いタカサゴキララマダニ及び JSF を媒介するヤマアラシチマダニを多く捕獲してきた。そのため、今年度の調査では同じく林縁部で守山区 A より市内中心部に近く、付近には新興住宅地が広がっている地点(守山区 B)を追加し、調査体制を強化した。その守山区 B では守山区 A よりマダニを多く捕獲した。これは、周辺において穴掘りなどのイノシシの痕跡が残されていたり、シカがたびたび目撃されていたことなどから、シカやイノシシなどによってマダニが頻繁に運ばれていたためと考えられる。また、SFTS を媒介するキチマダニも守山区では市内で最も多く捕獲している。

表1 地点別のマダニ捕獲数。（ ）：成虫の捕獲数の再掲。東部丘陵地を灰色にしている。

区	地点種類	調査回数※	捕 獲 種									計
			タカサゴ キララマダニ	ペルルス カクマダニ	キ チマダニ	タカサゴ チマダニ	ヤマアラシ チマダニ	フタトゲ チマダニ	オオトゲ チマダニ	アカコッコ マダニ	その他	
千種区	東部 丘陵地	12	-	-	7 (5)	-	-	-	-	256 (7)	-	263 (12)
東区	都市 緑地	3	-	-	2 (0)	-	-	-	-	2 (0)	-	4 (0)
北区	都市 緑地	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西区	河川 敷等	3	-	-	-	-	-	-	-	1 (0)	-	1 (0)
中村区	河川 敷等	3	-	-	-	-	-	-	-	7 (0)	-	7 (0)
中区	都市 緑地	3	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	1 (1)
昭和区	都市 緑地	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
瑞穂区	都市 緑地	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熱田区	都市 緑地	3	-	-	1 (1)	-	-	-	-	30 (0)	-	31 (1)
中川区	都市 緑地	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
港区	河川 敷等	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南区	都市 緑地	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
守山区 A	東部 丘陵地	12	10 (0)	1 (1)	104 (22)	10 (3)	69 (37)	2 (1)	2 (1)	7 (0)	-	205 (65)
守山区 B	東部 丘陵地	12	15 (3)	-	419 (31)	2 (0)	118 (42)	-	1 (0)	99 (0)	1 (0)	655 (76)
緑区	東部 丘陵地	12	-	-	7 (2)	2 (1)	-	-	-	883 (13)	-	892 (16)
名東区	東部 丘陵地	12	-	-	36 (12)	-	-	1 (0)	2 (0)	1 (0)	-	40 (12)
天白区	東部 丘陵地	12	-	-	24 (6)	-	1 (1)	1 (1)	2 (1)	7 (0)	-	35 (9)
計		105	25 (3)	1 (1)	600 (79)	14 (4)	189 (81)	4 (2)	7 (2)	1,293 (20)	1 (0)	2,134 (192)

(イ) 月別のマダニ捕獲数及び種類について

毎月調査した東部丘陵地における月別のマダニ捕獲数では、人嗜好性が高いタカサゴキララマダニ及び JSF を媒介するヤマアラシチマダニを、媒介感染症が好発する春から秋にかけて多く捕獲した(表 2)。また、SFTS を媒介するキチマダニは年間を通じて捕獲した。8 月に突出して多くキチマダニを捕獲しているが、全て幼虫である。SFTS ウィルスは経卵感染するとされ、幼虫でも注意が必要である。これらのマダニを多く捕獲する守山区(表 1)では、この春から秋にかけてマダニ刺咬被害対策が必要である。鳥嗜好性が高いアカコッコマダニは、渡り鳥が来訪する冬から春にかけて捕獲した。アカコッコマダニは人嗜好性が低いとされるが、マダニが住みやすい環境であるかの目安にはなると考えられ、多く捕獲するスポットにおいては他の種が侵入しないか注視する必要があると考えられる。

(ウ) その他

SFTS を媒介するフタトゲチマダニも数は少ないが捕獲した(表 1、表 2)。フタトゲチマダニには両性生殖系統とメスのみで子孫を残す單一生殖系統があるが、フタトゲチマダニがマダニ媒介感染症の主なベクターと考えられている地域では両性生殖系統が多く生息するとされている。本市の調査ではこれまでフタトゲチマダニ成虫はメスしか捕獲しておらず、現状ベクターとしての重要性は低いと考えられるが、今後両性生殖系統が流入し、成虫のオスを捕獲するようにならないか、注視する必要があると考えられる。

ベルルスカクマダニは令和 4 年度の調査において初めて捕獲し、本調査では守山区 A のみで捕獲した(表 1)。本種はイノシシなどの大型野生動物を好んで吸血する大型のマダニ種であるが、令和 6 年度までに成虫以外の幼虫や若虫は捕獲していない。後定着にいたるか注視する必要があると考えられる。

シカなどを吸血するオオトゲチマダニやタカサゴチマダニも捕獲しているが(表 1、表 2)、生息密度はそれほど高くはないと考えらる。

オ　まとめ

令和 6 年度に実施した名古屋市内全域を対象としたマダニ生息状況調査では、従前どおり東部丘陵地ではマダニを多く捕獲したものの、それ以外の都市緑地及び河川敷等ではほとんど捕獲しなかった。しかし、市内中心部においても少ないながらもマダニを捕獲しており、今後定期的に生息密度が増加しないか確認する必要はあると考えられる。

また、東部丘陵地のなかでも守山区林縁部に設定した調査地点では、人嗜好性が高い種及び感染症媒介種を多く捕獲した。マダニ媒介感染症が好発する地域では、人の生活圏と大型野生動物の生活圏が近く、山林に入らずとも感染することもあるとされる。本市においては守山区林縁部がこの条件に近いが、近年守山区林縁部と隣接する市外において JSF の患者発生が報告されたことなどからも、守山区林縁部周辺においては重点的にマダニ媒介感染症に関する予防啓発を行う必要があると考えられる。

表2 月別のマダニ捕獲数(東部丘陵地調査地点)。() : 成虫の捕獲数の再掲。

月	調査回数	捕 獲 種									計
		タカサゴ キララマダニ	ペルルス カクマダニ	キ チマダニ	タカサゴ チマダニ	ヤマアラシ チマダニ	フタトゲ チマダニ	オトツ チマダニ	アカコッコ マダニ	その他	
4月	6	4 (1)	1 (1)	22 (11)	-	78 (10)	-	1 (1)	14 (1)	-	120 (25)
5月	6	6 (0)	-	44 (6)	-	27 (20)	-	-	38 (5)	-	115 (31)
6月	6	-	-	7 (0)	4 (1)	18 (16)	-	-	-	-	29 (17)
7月	6	3 (0)	-	11 (1)	1 (1)	19 (16)	1 (1)	-	-	-	35 (19)
8月	6	1 (0)	-	326 (0)	-	20 (15)	2 (1)	-	-	-	349 (16)
9月	6	3 (1)	-	5 (0)	1 (1)	25 (3)	-	-	-	-	34 (5)
10月	6	3 (1)	-	24 (7)	1 (1)	1 (0)	-	1 (1)	-	-	30 (10)
11月	6	-	-	35 (12)	1 (0)	-	1 (0)	1 (0)	63 (0)	-	101 (12)
12月	6	-	-	32 (11)	4 (0)	-	-	-	507 (1)	-	543 (12)
1月	6	-	-	25 (6)	1 (0)	-	-	1 (0)	155 (1)	-	182 (7)
2月	6	-	-	23 (11)	-	-	-	-	121 (2)	-	144 (13)
3月	6	5 (0)	-	43 (13)	1 (0)	-	-	3 (0)	355 (10)	1 (0)	408 (23)
計	72	25 (3)	1 (1)	597 (78)	14 (4)	188 (80)	4 (2)	7 (2)	1,253 (20)	1 (0)	2,090 (190)

(3) スズメバチ生息状況調査

ア 目的

感染症対策・調査センターでは、前身の旧生活衛生センター時代からスズメバチの生息状況調査を実施してきたが、令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症への業務対応等のため、調査の中止縮小を余儀なくされた。そこで、令和4年度からは調査の効率化を図り、通年で実施する季節変動調査と夏期に実施する分布調査の二つの方法を組み合わせて調査を実施することとした。

今年度3年目となる新たな調査方法でスズメバチの発生動向を把握することにより、今後の刺傷被害防止の一助となることを目的とした。

イ 調査方法

発酵糖液（乳酸飲料：水=6:4）を誘引剤に用いたファネルトラップを樹木の枝（高さ：約2～3.5m）に地点ごと2ヶ所設置する。捕獲したスズメバチは種類別及びカースト別に同定・計数した。

(ア) 季節変動調査

毎週トラップを1週間設置し、スズメバチを捕獲した。

(イ) 分布調査

調査期間中に1回トラップを2週間設置し、スズメバチを捕獲した。

ウ 調査地点及び調査期間

(ア) 季節変動調査

調査地点 … 市内の公園・緑地等の3地点（守山区^{*1}、緑区及び名東区）

調査期間 … 令和6年4月中旬から令和6年11月末まで

(イ) 分布調査

調査地点 … 市内の公園・緑地等の12地点（千種区、北区、西区、中村区、中区、昭和区、熱田区、中川区、港区、南区、守山区^{*1}及び天白区）

調査期間 … 令和6年8月から令和6年9月（トラップの設置8月、回収9月）

エ 調査結果

(ア) 季節変動調査

調査期間中に捕獲されたスズメバチは4,041頭で、種別でみるとオオスズメバチが1,990頭で約半数を占め、次にモンスズメバチ1,184頭、コガタスズメバチ596頭と続いた。カースト別でみると、働きバチが3,602頭で約90%を占め、女王バチが301頭、オスバチが138頭となった（表1）。

全種合計捕獲数（以下、「総捕獲数」という。）の週ピークは9月の第1週となり、種別でも、オオスズメバチ及びモンスズメバチは同様に9月第1週がピークとなった。コガタスズメバチ及びヒメスズメバチは8月第2週がピークとなり、総捕獲数のピークより3週早くピークが現れた。オオスズメバチは他種に比べてピーク後も捕獲数の減少が緩やかで、10月以降も多数活動していた。カースト別でみると、働きバチは総捕獲数と同じピークの傾向であるが、女王バチとオスバチのピークはそれぞれ6月1週、11月1週となった。（表1、図1）。

過去2年に比べると、令和6年度の総捕獲数は最多となった。種別の捕獲数でもヒメスズメバチを除く種で最多となったが、その中でもモンスズメバチは過去2年にくらべると優に2倍以上捕獲され、総捕獲数を大きく底上げした。また、この3年間、月別の週平均総捕獲数は9月にピークを迎えたが、令和6年度はモンスズメバチの増加による影響で8月に大きく増加し、9月に迫る総捕獲数となった（表1及び図2）。同様に、カースト別で過去2年に比べると、働きバチは総捕獲数と類似の発生動向を示した。また、女王バチも最多の捕獲数となり、6月1週のピーク時の他に4月にも捕獲数が大きく増加した。オスバチは捕獲数に大きな変化は見られなかつたが、オオスズメバチの捕獲数が多かつた影響により11月にピークが現れた（図3）。

表1^{*2} 週ごとの種・カースト別の捕獲数(3地点合計)

月週	種別	コガタ	モン	ヒメ	オオ	その他	総捕獲数	カースト別内訳	
							女王	働き	オス
4月	II	2				4	6	6	
	III	26	9	11	8	54	54		
	IV	22	4	12	1	39	39		
5月	I	4	5	15		24	24		
	II	3	2	6		11	11		
	III	3	3	5		11	11		
	IV	6	5	1	9	21	20	1	
6月	I	69	14	15	14	3	115	85	30
	II	28	7	18	19	1	73	35	38
	III	14		7	7		28	8	20
	IV	12	5	4	10	3	34	3	31
7月	I	14	21	4	16		55	3	52
	II	1	16		5		22	1	21
	III	31	31	1	30		93	1	92
	IV	13	36	1	31	1	82	82	
	V	28	76	11	36	3	154		154
8月	I	35	90	17	39	4	185		185
	II	85	136	27	114	5	367		367
	III	40	85	24	94	8	251		251
	IV	17	125	18	179	2	341	340	1
9月	I	47	141	26	241	2	457	453	4
	II	12	99	14	146		271	266	5
	III	5	74	6	137		222	216	6
	IV	8	106	4	158		276	272	4
10月	I	5	60	5	95		165	158	7
	II	6	16		113		135	133	2
	III	6	10		95	1	112	108	4
	IV	17	4	1	97	1	120	106	14
	V	20	1		97	1	119	99	20
11月	I	9	2		80	11	102	74	28
	II	5			45	2	52	26	26
	III	2	1		29		32	18	14
	IV	1			5	6	12	9	3
R6年度計		596	1,184	204	1,990	67	4,041	301	3,602
R5年度計		311	334	180	1,666	28	2,519	171	2,219
R4年度計		588	543	217	1,617	15	2,980	240	2,581
									159

注：色付きのセルは各捕獲数が最多の週

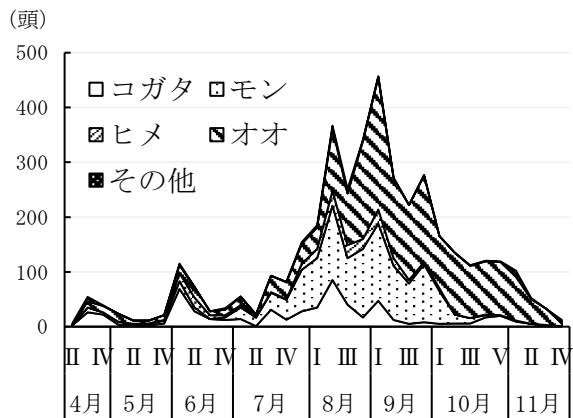


図1 週ごとの総捕獲数と種別捕獲数推移

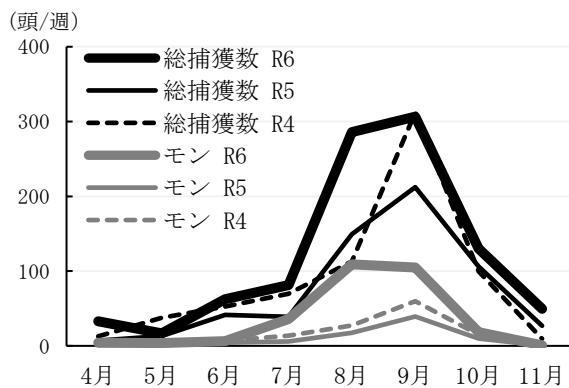


図2 月ごとの総捕獲数とモンスズメバチ捕獲数推移の年比較

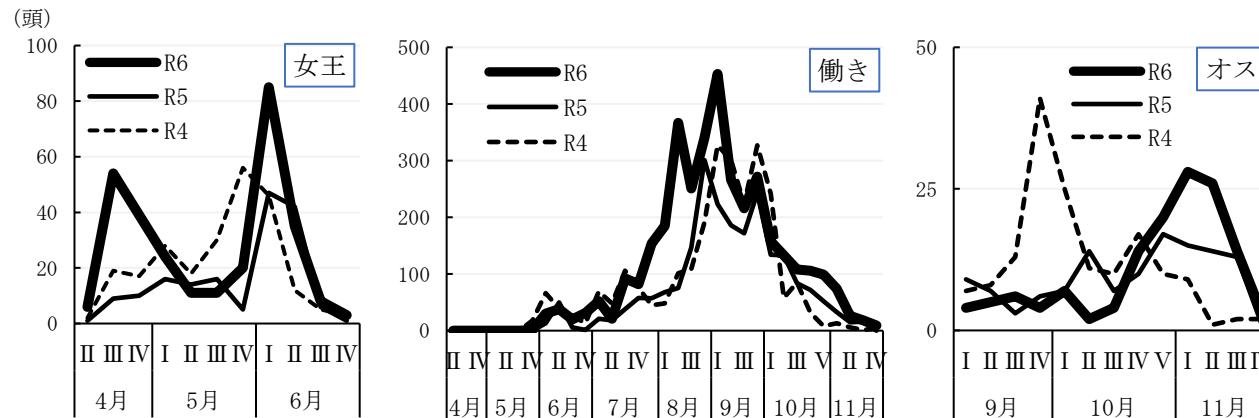


図3 カースト別（女王・働き・オス）捕獲数推移の年比較

(イ) 分布調査

調査期間に捕獲されたスズメバチは1,430頭で、種別でみると、モンスズメバチが562頭で最も多く、コガタスズメバチ535頭、オオスズメバチ298頭がそれに続いた。捕獲されたカーストはほぼ働きバチであった。過去2年に比べると、総捕獲数は最も多く、種別でもモンスズメバチ及びコガタスズメバチが最も多く捕獲された。その一方で、オオスズメバチ及びヒメスズメバチは減少した（表2）。

名古屋市の地形は、丘陵地の東部（守山・千種・名東・天白・緑区）、平坦な台地の中央部（中・東・昭和・瑞穂区と南・熱田区の一部）、沖積地の北・西・南部（北・西・中村・中川・港区と南・熱田区の一部）の大きく3つに分かれている^{*3}。今回の調査では、丘陵地で規模の大きい公園や緑地が比較的多い東部に含まれる区を東部丘陵地、それ以外の平地で市街地が広がる区を中西部平地として地域を分類した。

a 東部丘陵地(千種区、守山区及び天白区)

東部丘陵地の総捕獲数は 678 頭で、分布調査全体の総捕獲数と同じくこの 3 年間で最も多かった。種別でみると、モンスズメバチ及びコガタスズメバチが過去 2 年に比べて 2 倍以上に増えた。特に、モンスズメバチは捕獲数としても 150 頭以上増加し、オオスズメバチの捕獲数を上回り優占種となった。オオスズメバチは捕獲数自体に大きな変動はなかったが、過去 2 年 50% 以上を占めていた捕獲割合が 40% に減少した（表 2、図 4）。

地点別で過去 2 年に比べると、千種区での総捕獲数が大きく増加したが、そのほとんどはモンスズメバチの増加の影響であった。守山区及び天白区では種ごとの捕獲数に増減はあるものの総捕獲数に大きな変動は見られなかった（図 5）。

表 2 地点（地域）別の種別捕獲数

	コガタ	モン	ヒメ	チャイロ	オオ	総捕獲数
東部丘陵地	9	257			53	319
	57	6	2		93	158
	43	20	10		128	201
	109	283	12	0	274	678
北	16	6			2	24
西	50	84	5		15	154
中村	16		1			17
中	10				1	11
中西部平地	101	195	2		3	301
	熟田	11				11
	中川	12	4	1	2	19
	港	156	4			160
南	54				1	55
小計	426	279	22	1	24	752
R6年度計	535	562	34	1	298	1,430
R5年度計	307	140	46	6	338	837
R4年度計	429	230	54	5	414	1,132

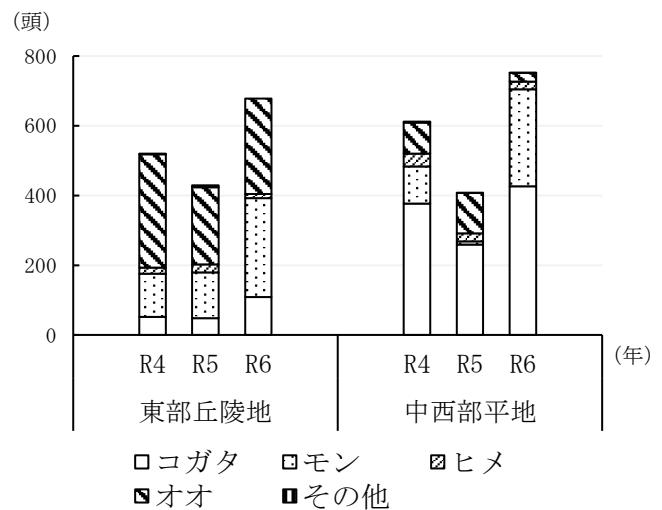


図 4 地域別の総捕獲数と種別捕獲数推移の年比較

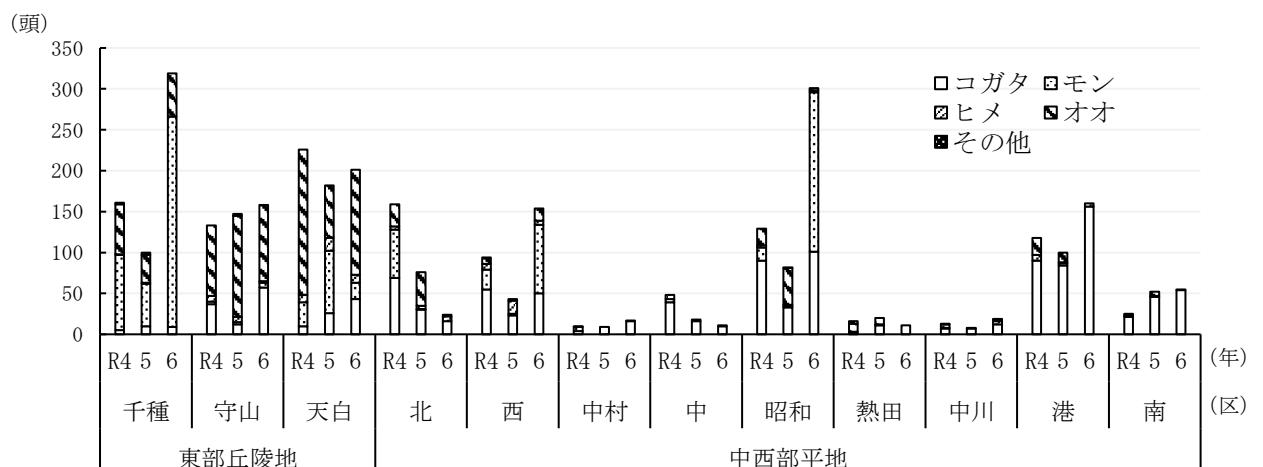


図 5 地点別の総捕獲数と種別捕獲数推移の年比較

b 中西部平地（北区、西区、中村区、中区、昭和区、熟田区、中川区、港区及び南区）

中西部平地の総捕獲数は 752 頭で、東部丘陵地と同様にこの 3 年間で最も多かった。種別でみると、コガタスズメバチが 426 頭捕獲され今年度も 50% 以上を占めた。過去 2 年に比べるとモンスズメバチが優に 2 倍を超える捕獲数となり、総捕獲数の増加の大きな一因となった一方で、オオスズメバチの捕獲数は減少し全体の 5% 以下となった（表 2、図 4）。

地点別で過去 2 年に比べると、西区及び昭和区での総捕獲数が大きく増加したが、いずれもモンスズメバチの増加によるものであった。北区及び昭和区ではオオスズメバチの捕獲数が減少し、中西部平地でオオスズメバチが減少する要因となった（図 5）。

才 考察

(ア) 季節変動調査

今年度、総捕獲数が 3 年間で最多となったのは、名古屋市の年平均気温^{*4} (17.9°C) が観測史上最高となり、スズメバチの生息期間中も平年より数°C高い気温でほぼ推移したことが大きな理由の一つと考えられる（図 6）。その中でも、女王バチが越冬から活動を始める 4 月に高温と

なったことで、初期の営巣活動に順調に移行できたものと思われる。また、例年 10 月以降は季節の進行に比例し総捕獲数は減少するが、今年度は秋季も気温の高い気候が続き、11 月初旬までオオスズメバチの活動が衰えず総捕獲数の減少が見られなかつた。今後秋季の高温化が進むと、オオスズメバチの活動もより長くなるものと思われる。

種別でみるとモンスズメバチの捕獲数が著しく増加した。特に 7 月から 8 月中旬にかけては優占種となり、総捕獲数を大きく押し上げた。モンスズメバチの総捕獲数に占める割合は 29.3%で、令和 4 年度の 18.2%、令和 5 年度の 13.3%を大きく上回ったが、平成 19 年度から令和元年度までの調査において、同

じ 3 区（一部調査地点変更あり）でのモンスズメバチ捕獲率が今年度の結果を超えた年も複数あることから、増減の変動の範囲内と思われる。なお、モンスズメバチが他種に比べ大きく増えた要因は、営巣に適した場所や幼虫のエサとなる大型昆虫の増加等様々な条件が組み合わさったものと思われるが、モンスズメバチはオオスズメバチと同程度に営巣規模が大きくなり、一般的にコガタスズメバチに比べると育房数では 4 倍程度になることから、営巣数が増えると飛躍的に捕獲数が増加するものと考えられる。

(1) 分布調査

東部丘陵地ではモンスズメバチがオオスズメバチに代わって優占種となった。理由としては、千種区におけるモンスズメバチの大量捕獲が強く影響した。千種区は過去 2 年もモンスズメバチが優占種であったが、今年度は地点内及び周辺での営巣がさらに多かつたことが考えられる。

中西部平地では、過去 2 年に引きコガタスズメバチが優占種であったが、今年度は東部丘陵地と同様にモンスズメバチが大きく増加した。地点別でみると、全体的に増加しているのではなく、西区と昭和区で大きく増加していて、その他の地点ではモンスズメバチは捕獲されなかつた。モンスズメバチは他の種より、捕獲数が調査地点周辺の営巣状況に強く影響を受けるものと思われる。モンスズメバチが捕獲された 2 区は、公園等の面積が中西部平地の中で上位二つの地点で、営巣場所となる樹木や幼虫のエサとなる大型の昆虫類の豊富さ等が他の地点よりモンスズメバチの営巣に適していたことが考えられる。その一方で、地点の公園面積が三番目に広かつた北区で総捕獲数が減少しているのは、大規模な公園再整備工事が昨年度から継続して行われており営巣や採餌活動の障壁になったものと思われる。

才　まとめ

今年度の調査では、モンスズメバチが大きく増加する結果となった。モンスズメバチは北方系の種で、セミやトンボ、バッタ等の大型の昆虫類を幼虫のエサとするため、一般的には本市の市街地には適さない種と考えられるが、生息に好適な条件が揃えば大きく増えることがわかつた。モンスズメバチは一般的に樹洞に営巣するため、コガタスズメバチのように一般住宅の敷地に営巣することは少ないが、巣の存在が外部からわかりにくく、営巣活動の探知が遅れる可能性がある。性質上も攻撃性が強く日没後もしばらく活動するため注意を要するスズメバチである。また、モンスズメバチは、営巣が周辺の環境などに左右されやすい一方で、一旦営巣活動が始まるとコガタスズメバチやヒメスズメバチよりも営巣の規模が大きいため、他の種よりも、年ごとの捕獲数の増減の振れ幅が大きくなる傾向があることがわかつた。

当センターでは、近年の高温化が続く気象の中、発生動向の変わるおそれのあるスズメバチの生息状況を今後も引き続き把握して、市民の刺傷被害防止の一助としていきたい。

*1 季節変動調査と分布調査の守山区の地点は異なる。

*2 図表中においては、コガタ：コガタスズメバチ、モン：モンスズメバチ、ヒメ：ヒメスズメバチ、オオ：オオスズメバチ、チャイロ：チャイロスズメバチ、その他：チャイロスズメバチ、クロスズメバチ及びキヨロスズメバチとする。

*3 名古屋市の地形の分類は、名古屋市公式ウェブサイトを参考にした。

*4 平均気温は気象庁ホームページより名古屋市の観測データを用いた。

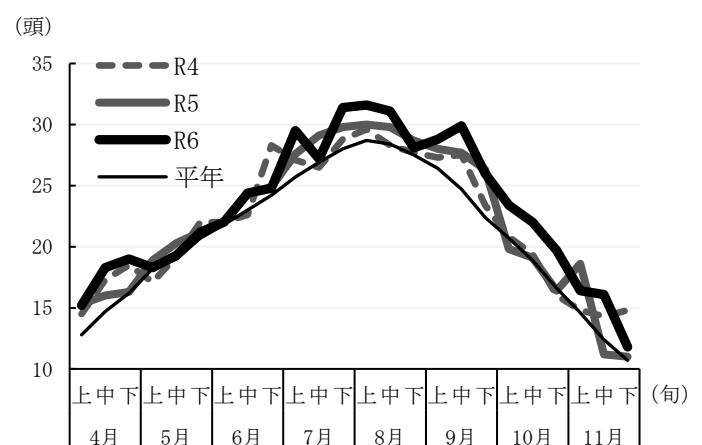


図6 名古屋市の旬平均気温推移の年比較

名古屋市保健所
感染症対策・調査センターの活動（業務課）（令和6年度）

発 行 〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地

名古屋市保健所 感染症対策・調査センター

TEL 052-737-3712 / FAX 052-736-1102

編 集 感染症対策・調査センター 業務課

発行日 令和7年11月

発行部数 160部

印 刷 社会福祉法人 名古屋ライトハウス明和寮
(年刊・無料・特定配布)

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。